

別紙様式5号（別記1のIの第3の3及び4並びに別記2のIの第2の3及び4関係）
都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

1 産地基幹施設等支援タイプ

（都道府県名：福岡県 令和6年度）

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	メニュー①	類別	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① (対象作物・畜種等名)②	メニュー②	類別	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
					計画時 (R2年)	1年後 (R4年)	2年後 (R5年)	3年後 (R6年)	目標値 (R6年)	達成率					計画時 (R2年)	1年後 (R4年)	2年後 (R5年)	3年後 (R6年)	目標値 (R6年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
みやま市	南筑後農業協同組合	土地利用型作物(稲)	A5	事業実施地区における下位等級指数を50%削減	13.74 (下位等級指数100~86.26)	27.19 (下位等級指数100~72.81)	28.72 (下位等級指数100~71.28)	76.73 (下位等級指数100~23.27)	6.87 (下位等級指数100~93.13)	▲916.8%	事業実施地区における下位等級指数が62.99ポイント上昇した。	B7	麦類の新品種の作付割合を30.9ポイント増加	0% 麦類の新品種の作付面積0ha	31.6% (234.9/741.9*100) 麦類全体の作付面積733.6ha	31.8% (231.6/728.0*100) 麦類全体の作付面積741.9ha	34.2% (258.6/754.6*100) 麦類全体の作付面積728.0ha	30.9% (238/770*100) 麦類全体の作付面積754.6ha	111.0%	麦類の新品種の作付割合が34.2ポイント増加した。	耕種作物 産地基幹施設整備 穀類乾燥調製貯蔵施設 荷受施設 乾燥施設(45t/基) 調製施設 集排じん設備(4,524㎡/min) 附帯施設(自主検定装置)	575,801,600	261,728,000	0	52,345,000	261,728,600	令和5年3月31日	水稻については、昨今の異常気象により、特に出穂後が高温となり、ヒノヒカリにおいて令和5年度では平年差+1.7℃に対して、令和6年度では平年差+2.8℃と特に高温となったことで乳白色米や充実度不足が多く発生し、下位等級指数が増加したため、目標未達となった。今後、移植時期の遅守および出穂前後に水を切らさないなど、湛水管理の徹底を生産者へ指導する事で高温障害の影響を低減し、品質低下を抑制する事で目標達成を図る。 麦については、新品種「みなみのやわら」への誘導により、新品種作付割合が増加し、達成率は111%となった。	水稻の下位等級指数については、夏季の高温の影響を受け、乳白色米や充実不足等が発生している。令和6年度は5年度と比較しても特に高温であったため、下位等級指数が増加し、目標未達となった。移植期の順守及び出穂前後に水を切らず、かけ流しを行うなど、湛水管理を徹底することで品質向上に取り組む必要がある。		

都道府県平均達成率	50%	総合所見	本県における本年度の事業評価の対象となったのは、みやま市の1地区であり都道府県平均達成率は50%であった。南筑後農業協同組合について、麦類の新品種作付割合の増加は、達成率111%となったが、水稻の下位等級指数の削減は、目標未達となった。今後は、成果目標の達成に向け、高温対策など天候に応じた栽培管理の徹底について、関係機関と連携のもと指導を行っていく。
-----------	-----	------	--

- (注) 1 別紙様式1号の1の(2)のIに準じて作成すること。
- 2 要綱別記1のIの第2の2の(2)のただし書きの場合にあつては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
- 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
- 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
- 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
- 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。